

# 令和4年度 上越市立有田小学校 第2回学校運営協議会 議事録

令和4年7月5日(火) 14:25~15:45 於:有田小学校図書室

<次第> 進行:教頭

1 開会のあいさつ(会長) 略

\*コロナ禍に伴い、例年より  
時期を遅らせて開催した。

2 学校長あいさつ(野田校長)

4月当初からコロナウイルス感染症の拡大傾向もあり、厳しい状況が続いた。学級閉鎖や学年閉鎖を立て続けに行う中での4~5月となった。そのような中でも、運動会についてはなんとか開催することができた。子どもたちも楽しみにしていた行事で、応援練習にも力が入り、一生懸命走る姿を保護者の皆様に見ていただくことができた。

1学期については、制限しなければいけない中だが、保護者や地域の皆様のご協力の下、野菜を栽培したり、まちづくりの仕事を見学・体験したりするなど、豊かな活動をさせていただいている。特に、講師の方々がしっかりと子どもたちの記憶に残るように配慮をしていただき、子どもたちの将来の夢や志につながる活動となっていることに感謝申し上げたい。

今日は授業参観だった。子どもたちはいつもよりも元気で、あいさつの声も大きく、笑顔であった。保護者や地域の皆様に自分の姿を見られるということはきっと嬉しいことなのだと思う。ご覧になっていただいたように、子どもたち同士、子どもと先生方の人間関係は概ね良好で、とても良い関係の中で学習を進めることができている。ただし、こちらをご覧になった方がおられることと思うが、学級の中で一緒に学ぶことがなかなか難しいお子さんがいることも事実である。例えば、なかなか校舎に入れずに座り込み、先生方に手を引かれてようやく入ることのできるお子さんがいる。教室で一緒に学ぶことが難しく、廊下を走り回ったり、1階オープンスペースで過ごしたりするお子さんもいる。また、友達との関係を上手く作ることができず、些細なことで相手を叩いたり引っかけたりしてしまうお子さんもいる。感情の起伏が激しく、怒鳴ったり物にあたったりするお子さんもいる。昨年も話があったと思うが、長い時間をかけてその子に寄り添いながら関わることで、同じ教室で一緒に学ぶことができるように育てていきたいと考える。しかしながら、有効な手立てというものはなかなか無く、そのお子さんが落ち着いてきたり、集団が受け入れられるようになっていかないとなかなか難しい。そのため、時間がかかる状況である。

一番の課題は、たとえ落ち着かない環境にあったとしても、しっかりと自分で学ばなくてはならないと考え、学ぶことのできる子どもを育てること。一人一人がしっかりとしている子を育てるということである。あわせて、そういう子どもを助けるような動機付けができる教員を育てなくてはならない。

現在、上越市教委から介護員8名、教育補助員4名を特別な支援を要するお子さんのためにと配置をいただいている。それでも足りず、上越教育大学の院生に午前中の支援に入ってもらっている。さらに、上越教育事務所からもSSWが1名、週1回ではあるが来ていただいている。これは、マンツーマンでその子の気持ちに寄り添わないと難しい状況のためである。

もう一つの課題は、コロナ禍により全校集会、縦割り班活動が難しかったこと。低学年の子が高学年の子を見たり、高学年の子が低学年を見たりする。あるいは、一緒に関わって活動することが2年間、難しかった。学校の良さは、子ども同士がお互いに関わり合うところにこそ教育的価値があるのだが、難しかった。その結果、低学年は高学年の立派な姿を手本にできなかつたし、高学年はやりたい気持ちがあっても低学年を助けることができなかつた。行事等でリーダーシップをとろうにも、それも難しい状況だった。6月29日に、ようやく今年度初めての縦割り班活動を実施できた。高学年にはしっかりやらなきゃという姿が見え、お兄さんやお姉さんがいるから低学年も緊張して姿勢が良かった。コロナ禍の状況にもよるが、今後もできるだけ子ども同士の関わり合いを深めていきたい。

### 3 報告・協議

①令和3年度学校運営協議会の振り返り（教頭） 略（別紙報告書記載のとおり）

②本年度の教育活動について（校長） 説明については略（グランドデザインに記載のとおり）

（校長） 問題はこのグランドデザインを「どのように実行していくか」にある。例えば、「誰にでもあたたかい言葉をつかっているか」というと、口の大変悪い子どももいる。私もいきなり暴言を吐かれたこともある。顔を見た第一声が「くそやろう」、だったり「今日、水泳あるの？」と聞かれ、「あなたの学年の先生ではないから分からないよ。」と話す、「死ね！死ね！」と言われたり…。大人からすれば、そんな言葉をなぜ言うのかと思うのだが、実は、子どもは言葉の意味をあまり深くは考えていなくて、知っている悪そうな言葉を自然に出しているだけに過ぎない。テレビやゲームの影響だと思うのだが、本当に殺そうと思って「死ね！死ね！」と言っている訳ではない。しかし、人間関係としては、嫌な言葉や否定的な言葉を子ども同士で使うと、けんかになったり、嫌な思いが積もっていじめにつながったりする。言葉づかいを変えていく必要があり、気持ちの良い言葉が使える子に育ててほしいと願っている。とくに、人権教育、同和教育を中核に進めていきたい。お互いに人権をもっていることを学び、友達の心や気持ちを大事にして学校や地域で過ごしてほしいと思う。事あるごとに学級、学年、全校で指導していく。そして、相手を思いやる子どもに育てていきたいと思う。

また、学び合い、考えを深めることも進めている。特に、「主体的な学び」を生み出す授業づくりが大事である。子どもたちからは「先生がちゃんと教えてくれないから、ぼくは勉強ができないんだ。」と言われたことがある。「先生方には一生懸命に教えるように言うね。」と答えたが、本来、勉強は自分でするものにならないと、将来、困ることになる。高校、大学であってもそうだし、社会に出れば尚更だが、いつでもなんでも教えてもらえるわけではない。自ら学ぶ力を付けていかなくてはならない。そのために、先生方には、子ども自ら学ぶ授業に代えてほしい、特に、めあてをもって取り組む子どもに育ててほしいと伝えている。水泳授業でも一人一人にめあてをもたせているかと問うた。潜れない子は顔に水を付けるというめあてをもつべきだし、20m泳げる子は25m泳げるようになるというめあてをもつべき。めあてをもったら、自分で一生懸命取り組んで達成していくようになる。そうでないと全てが他人事になる。究極的には、自分のために自分で学び、学んだ結果、「できた！」という自信をもつ子に育てていきたい。

最後に、「進んで運動する子、生活習慣を身に付けている子」については、メディアの接触時間をコントロールする力を付けていかなくてはならないと感じる。子どもたちと話していてもゲームの話題しか出てこない。「先生、ゲームするの？」「先生スマホを持ってる！ゲームができていいな！」と…。おそらく、ゲームが主で、学校や家庭生活が従のお子さんも多い。こちらを変えていかないと、本来体験しなくてはならないこと、学ばなければならないことがゲームに削られてしまう。これでは大人になったときにたいへん困る。メディアの接触時間をコントロールする力を育てていかなくてはならないが、そのためには家庭の協力がとても重要であり、また呼び掛けていく。

（A氏） あいさつや言葉遣いについては、学校や家庭で「おはよう」でなく「おはようございます」であるなどの「マナー教育」はされているのか。それは定期的実施したり、仕掛けをしたり

しているのか。大人が「おはよう」と言っていれば、子どもだっていつまでも「おはよう」のままだろう。「おはようございます」にしていくような仕掛けが必要なのではないか。

(校長) 必要なことだと思っており、道徳や学級活動で指導している。だが、いつも取り組んでいるけれども達成されない課題であるとされる。家庭でもとのことだが、子どもたちに2つの意味で身に付かないようである。ひとつは、挨拶することで得られる「よさ」を感じにくいこと。だから、しなくてもよいと思っている。家庭でも友達同士でも、あいさつをしなくても生活は過ごせてしまう。それ自体を変えていかない限りは難しい。もうひとつは、マナー自体が緩くなってきていること。例えば、立ち止まってあいさつをする子は素晴らしく、どのような場面でも認められるのだろうが、今では大学生であっても難しい。就職試験で初めて身に付けるという話も聞く。学校ではくり返し教えていく必要があるだろう。毎朝、校門に立ってあいさつをしているのだが、あいさつすることで得られる気持ちよさは、一人でも多くの子に伝えていきたい。

(A氏) 子どもたちと大人と一緒に、あいさつをする目的について話し合うことを繰り返すことが必要だろう。私の経験では、外国人ではあいさつをしない。だが、取引相手とは確実にあいさつをする。そうしないと仕事が成り立たないから。一方、日本人はあいさつをすると思っている。それは気持ちがいいからなどの理由があり、大切にしてほしいところだ。ただ、我々は自然にあいさつができるようになってきている節があるがそうではない。「おはようございます」「ありがとうございます」「ごめんなさい」が言えなければ、世の中では「この人は何をしているのか？」となる。あいさつをしない親に、子どもが「それ、おかしいよ」と言えるくらいの仕掛けを学校がしていけないと。あと、直東学園では、あいさつ運動を外でするけれども、中ではどうだろうか。例えば授業前のあいさつ。気持ちを切り替え「さあ、やろう！」という意味を意識付けているだろうか。そのあたりの仕掛けが大切だ。

(B氏) メディアの接触時間をコントロールする力を育てていかななくてはとのことだが、親子がそれぞれゲームを楽しんでいるのではないか。そのような家庭では、果たして親子の会話はあるのだろうか。親子の会話がそもそもないとしたら、指導できない。また、子どもにゲームをするなどと言って、親が一生懸命にゲームをしているようでは難しい。かといって、先生方が家庭に入り込んで指導するわけにもいかない。まずは親が自覚しなくてはならない。子どもだけ学校に預けておけばよい子になるなどという考えは大間違いだ。

あと、1年生から順に参観をさせてもらったが、いろいろなお子さんがいることを感じた。今は私たちが子どものころと違って、先生方に叱られるということがない。私たちの頃の感覚だと「うちの子が悪い子だから、先生に叱ってもらった。」と考えるのが当たり前だったが、今はその逆で、叱られたことのない親が、「うちの子は良い子なのに、先生に叱られた。」となる。これでは先生方も大変だ。しっかりとやっている子がいる一方で、好き勝手にしている子がいる。先生方にばかりあれこれと言う前に、我が子の様子を見て、親はどのように思っているのかな…ということが、私としては不安である。

(A氏) ゲームやメディアに関してだが、私たちは、「なぜ、子どもたちはそんなにもゲームをしてしまうのか？」と考えてしまうが、ゲームやメディアはあまり考えずに時間を潰せてしまう。その時間を30分でいいから区切って、工作したり、絵を描いたり、読書をしたり…とか、他のことをしようという仕掛けが必要で、「ダメだ、ダメだ」では無理だろう。私にも孫がいるが

「ゲームはもう飽きた」と。そして、それぞれ何か好きなことをしている。その子に合うものを見付ける…、これも仕掛けが必要だろう。

もう一点、先の「いろいろなお子さんがいる」と関連するが、子どもの数自体は減っているのにそのようなお子さんは増えている。これは何を意味するかということと自己顕示欲の強い子が増えているということ。認めてほしい、優しくしてほしい、自分のことを分かってほしい…。学校でも縦割り班活動などを通じて仲の良い相手を見付けて、一緒に過ごすことでそのような気持ちを少しでも和らげていく…そんな仕掛けも必要なのだろう。家でも同じで、全てが面倒くさくなり、親もゲームでもしとけ…ということになっているかもしれない。ゲームを与えておけば静かにしているからね。

あと、そうではない子も、運動会などの行事前に胃腸炎になる子もいる。自己顕示欲を表に出さない代わりにストレスを抱えている子がいるということだ。ここをどうやっていくのか。先生方には、知識や数値として現状を把握するだけでなく、一人一人の実態に寄り添った地道な対策をお願いしたい。

(教頭) ゲームやスマホに子守をさせず、その代わりに何かを見付けることが大切だと…。

(A氏) 今は2時間だと言ったら2時間、目一杯ゲームをやっているからね。それを30分でいいから違うものに置き換えていくという仕掛けが必要だということ。

(校長) 手元にデータがないが、現在の親は、子どもの頃からゲームと一緒に育った世代で、親子と一緒にゲームをしているという方も多い。中には夜遅くまでゲームをして寝不足になり、学校で眠ってしまうお子さんもいる。ただし、聞くと子どもには勉強させたいという願いをもっておられる。自分はゲームをしても、子どもは勉強すべきだと。我々は働いているのだから問題はないという話なのだが、現実にはそうは上手くいかない。家庭の協力なくしては難しい。SNSも含めたスマホの利用時間は一般的な高校生で1日4時間以上だとのこと。よく考えると、1日8時間は寝て、8時間は学校に行って、4時間はスマホして…すると残りはほとんどないことになる。当然、勉強時間もないわけで、これでは勉強もできなくなっていくだろう。この傾向は少しでも食い止めなくてはならない。そのためにも保護者の理解が必要だ。子どもたちの未来を大事に思うならば、勉強時間を確保したり、ゲーム以外の楽しみを見付けたりしたいのだが、ゲーム業界も巧みで、中毒性の高いものもある。例えば、インターネットゲームなど。実際にやっている子どもも多いのだが、ゲームの世界で集まっていることので、ゲームに参加していないと友達でなくなる…など、雁字搦めになりつつある。そういったことも親が知った上で時間を決めるなどの制限が必要だ。学校では、メディアをコントロールする週間を設けるなどしている。中学校の定期テストに合わせてあり、家族皆で勉強時間をつくりましょうと。勉強にはかなりの努力が必要なのだが、努力することにより達成して得られる喜びは何事にも代え難いと思う。小学校、中学校ではできるだけその喜びを感じさせるようにしたいと思う。しかしながら、努力を嫌う、努力しないで成果のみを欲する傾向が強くなっている。

(A氏) それも目的次第だろう。余談だが、飲食店の経営者に話を聞いたところ、高校卒業後に就職した子どもと同じだそうだ。調理師になりたいという明確な目的のある子は遊びもせず一生懸命に仕事をする。そうでない子は何となく仕事をして長続きせず、退職してしまう。何か目的を見付けるきっかけ、仕掛けがやはり必要なのだろう。別にゲーム業界を敵に回して何かしようということではないが、このままでは子どもたちがおかしくなってしまう…。

(C氏) 先日、NHKの番組でラ・サール高校を取り上げていた。寮が人気だそうだ。子どもたちはテレカを束で持っている。なぜかということ、スマホもゲームも禁止されているからと。これを

裏返せば、ラ・サール高校のように「勉強する」という意識の高い子であっても、寮のような環境でなければ自己管理は難しいということなのだろう。ゲームを排除することはできないのだろうが、「自ら学ぶ時間を確保する」という目的意識をどのように高めていくかが肝要だ。そうでないと、ゲームに大切な時間を取られてしまうよということに気付かせないと…。

(A氏) やはり仕掛けが必要だということだよ。こういうのも習慣だから。ゲームに注いでいる力を何とか別のことに振り分けさせたい。私もいろいろな学校の会議に出席するけれど、メディアのことは毎年話題に上がるよね。それだけ心配ということだろう。

あとは、アスペルガーなどの特性のある子どもたちについて。そのような子どもが、自由に走り回るような環境だと、そうではない子どもが「自分だっていいじゃないか!」と同調するようにならないか心配。その線引きが難しいところだ。学校としては大変だろう。

### ③学校評価について(教頭) 項目説明については略

(C氏) 「あいさつ」については、地域の人にあいさつをするのはレベルが高いと思う。家族・友達と分けて実施してはどうだろうか?

(教頭) そのように設問を工夫したい。昨年度の学校運営協議会の席上、グランドデザインに関する取組を問うべきだとのこと指摘をいただいた。そこで、設問を作成したので確認いただきたい。ただし、学校としてこのことを保護者に問うのはいささか僭越なのではないかと危惧しているのだが、いかがだろうか?

(A氏) 設問が多いというのであれば、後から削ればよい。後から増やす方が、理解が得られないと思う。上段ではお子さんのことを問い、下段では保護者自身のことを問うことにより、上段と下段の関係性が見えてくる。一番聞きたいところだ。

(C氏) 厳しいのは、「グランドデザイン?」とならないかということ。手元にグランドデザインがあり、再度読み直していただく機会にもなるかもしれないが…。

(教頭) Webでの実施のため、ワンクリックで表示することが可能だ。そのように配慮したい。

(A氏) 子どもや学校を評価するばかりでなく、保護者が自身を評価することも必要だろう。

(C氏) 文面も優しくてよいと思う。「~している。」ではなく、「~しようとしている。」と意思を問っているのがよい。

(A氏) 「たたき台」としてもよい。中には答えにくい問いもあるが、そのことで意見が上がるようなら逆に意識が高いと見るべき。内容についての問い合わせ先も併記するとよいと考える。

### ④夢・志チャレンジスクール事業について

(教頭) 昨年度、いただいた意見を参考に評価方法を見直した。今年度も継続する。

## 4 意見交換

(D氏) 登校班についてお話をさせていただきたい。町内の子供会を抜けると登校班に入れないという問題が起きている。看過できないので、PTAの組織内に特設委員会を設けて話し合う予定である。

(A氏) 町内の子供会と学校の登校班は別物のはずだ。子供会を抜けたから登校班に入れないということは、過去に春日新田小でもなかったと思うが…。

(D氏) 時代が変わってきている。かつては町内の子供会に入るのは当たり前だったため、そのまま登校班も…と考えていたようだ。

- (E氏) 見守りのこともある。輪番でやっていると思うのだが、その割り振りを子供会がしていて、子供会を抜かれると一緒にできない…という発想があるかもしれない。あとは、会費などの問題があるか…。原因は分かっているだろうか？
- (教頭) 原因はいくつかあるようだ。保護者と子供会との間に意識のずれもあった。また、登校班を編成する際には子供会が主となることが多いが、その際、子供会のSNSを利用し、その後の連絡でも利用しており、子供会を抜かれると連絡ができない…などのシステム上の諸問題もあるようだ。
- (教頭) 子供会に加入しないお子さんは増えている状況である。
- (E氏) 初期の対応で、「では、抜かれるな」という思いが出てきたということでしょうか？
- (教頭) 時期的に難しいところもあったようだ。いろいろな役員が切り替わる3月末にそのような話になっており、学校も状況がよくつかめないまま新年度を迎えた。
- (E氏) 本来であれば、子供会は関係がない。私も子供会役員をしているが、子供会を抜けることで登校班には入れないという対応ならば、私は役員を降りますよ。初期対応が間違っている。
- (B氏) 子供会に任せてしまうのではなく、町内会として対応していけば…。
- (E氏) 町内会までは上がってこない。
- (A氏) 附属に行く子たちもいて、子供会には入っているけれど、登校班には入っていないという子もいる。転校などがあって登校班の人数が変わったら、PTA地域部が学校などと連絡を取り合って調整している。子供会のことも一緒になっているならば、確かにそれは大変だろう。
- (E氏) もし、私の町内でこのような発想を子供会がしているならば、町内会長として子供会役員を呼び付けて話をするだろう。あわせて、自分たちは子供会が嫌だから見守りなどは関係ない…という発想になられても困る。登校班は子供会とは別だとしっかりと伝えなくてはならない。朝の見守りが嫌だからとかで抜けるのであれば、それは問題外だ。
- (A氏) 町内会によっても対応が異なると思うのだが、多くの子供会で問題がないのであれば、その子供会への話でよいだろう。学校の登校班は、町内会や子供会は関係なく、子どもたちの安全を願い見守るものだ。
- (E氏) 子供会の気持ちも分かるが、子供会を抜けた親は、見守りなどはしなくてもよいのかと…。
- (C氏) ここまでの話を聞いていると、抜けた親が我が子を登校班から抜けさせてほしいと言ったのではなく、子供会を抜かれてしまうと「子供会では面倒を見切れない…」と拡大解釈をしてしまったように感じる。
- (A氏) SNSについても、子供会と登校班で分けるべきだろうね。
- (E氏) PTAや保護者の皆さんには分かってもらいたいことがある。地域だってそれなりのことをしているのだ。例えば、除雪。皆さん忙しくて出て来られないだろうからと地域で実際に除雪しているし、登校班も利用している。子供会などの町内会の組織を簡単に抜けることについては考えてもらいたい。
- (C氏) 少し整理してほしい。この話は、どこの町内会まで広がっているものなのか？
- (教頭) 2～3町内会である。これまでに調べたところでは、町内会によっても対応はまちまちで、子供会に入っていないなくても登校班に入れるという町内会もあれば、子供会に入っていない場合は入れられないという町内会も複数あった。ただし、いままでそのようなことが起こったことがなかったので…というところ。連絡方法もまちまちで、SNS利用もあれば、全くそのような手立てをもたない子供会もある。さらに言うと、隣の町内会はどのような方法を取っているのかも分からない…という状況のようだ。

- (A氏) そもそも、そんな権限が子供会にあるのがおかしい。子供会は町内会の傘下のはずだ。
- (D氏) 子供会でもどのように対応したらよいか相談することができず、結局、子供会で判断してしまったりもあったようだ。
- ほかに、特設委員会の目的としては、家庭数が増えてきている町内会があり、その区割りを再考したいということもある。PTA地域部でやってもらってもよいのだが、1年任期の中で行うのは極めて難しい。
- (A氏) PTA役員の仕事は1年間かもしれないが、子どもは6年間来るわけだからね。そのことを考えて動かないとね。
- (教頭) 対応なども整理して、統一した見解に揃えていくことが必要なのかなと思う。隣の町内とは違うぞというのも良くないと思う。ただし、学校がそのことを指摘するのは立場的に難しい。そこで、保護者を代表してPTAが動きたいと願っておられるのだが、そのあたりについては進めてもよろしいか？
- (A氏) 本当に単純なことだと思う。それを複雑怪奇なことになっているのではないか。
- (B氏) 最終的に、大人の面子や都合で、子どもたちが損をすることのないようにお願いしたい。
- (A氏) 春日新田小では、登校班6名のうち4名が外国籍の子どもという班もある。文化の違いなどもあって大変そうだが、登校班に関するトラブルは起きていない。何を言いたいかというと、登校班の趣旨を保護者の皆さんにしっかりと理解してもらわなければならないということだ。子供会などは全く関係ない。
- (E氏) そうでないと学校が大変になるよ。子供会を抜けたら学校に通うための登校班に入れなくなると、お願いすることができなくなる。
- (教頭) 有田小が創校する際に、保護者と地域と学校とで相談し、子どもたちの安全を少しでも確保することを願って集団登校を採用したと聞いている。しかし、学校では地域の細かな実情までは把握できず、登校班の編成は地域、保護者に委ねたと承っている。
- (E氏) その通りだ。親の仕事だ。
- (教頭) その地域、保護者…といったところで最もよく分かるのが子供会であり、登校班を編成することになったのだろうと考える。有田小も創校から5年が経ち、ひずみが出てきたり、当初の願いが弱まったりしているのかもしれない。
- (A氏) 有田小の問題…というよりも、直江津の学校はどこも登校班を組んでいるはずだよ。
- (E氏) 春日新田小から有田小に移っている町内会もあり、昔からやってきたことのはずだ。複雑に考えているだけだと思う。子どもの安全ということは、子供会への参加は自由だとかそういうものを超えるものだと考えなくてはならない。
- (D氏) ここでいただいた意見を参考に、進めていきたいと思う。
- (D氏) 別件だが、最近、登校時間帯に暴走運転をしている車両がある。下門前方面から三田方面へ向かって、無理な追い越しをしたり、猛スピードで走り抜けていたりしている。子どもたちの列に飛び込んだらと考えると非常に怖い。警察に申し入れをしようかと考えている。
- (一同) それは警察だね。一般の人ではどうしようもないだろう。
- (F氏) 交通安全ということでは、東中そばの団地のこともある。東中への送り迎えの車が徐行してくれればよいのだが、結構なスピードを出している。あまりに危険なので、町内会としても、団地内への進入禁止も考えたがそうはいかないと。そうなるとう注意喚起しかなく、ドライバーのモラルに期待せざるを得ない。

(教頭) 最後に、熱中症に関する事で皆さんにお諮りしたいことがある。資料に東中で子どもたちに示したプリントを掲載した。有田小もこれに準じようとは思ふ。しかし、日傘はチャンバラが始まる気がする、汗拭きシートは際限なく使ってしまう気がするから、この2つを外し、衣服に準じるものの使用は認める方向で行きたいと考えるがいかがか？

(G氏) 日傘はやめた方が良さそう。雨傘であってもチャンバラをやっている子がいる。それよりも、狭い道路では車道部分にはみ出して、雨傘であっても怖いなど思うことがある。

5 閉会のあいさつ (副会長) 略